

生体病態学Ⅲ

Pathophysiology Ⅲ

単位数：5単位

○紫藤 治 教授：環境生理学
渡部 広明 教授：Acute Care Surgery
松崎健太郎 講師：環境生理学
内尾祐司 教授：整形外科
佐倉伸一 教授：手術部

1. 科目の教育方針

全身に及ぶような疾患、症候、外傷などについて、それぞれの病態生理や原因を個体レベルから分子レベルにいたる各層まで広く学ぶ。さらに、それらの診断法、治療法、対処法、予防法などを最新の研究結果や知見から学習する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

全身性の疾病や症候などの治療法、対処法、予防法を習得あるいは確立するために、それらの発症メカニズムと病態生理を学習する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 発熱と anapyrexia の概念および病態生理を述べることができる。
- 2) 体温異常による組織障害の分類と病態生理を述べることができる。
- 3) 高度な侵襲を受けた生態に発生する病態生理を述べることができる。
- 4) 麻酔薬の毒性と中毒時の病態生理および治療法を述べることができる。
- 5) 外的要因による運動器系疾患の病態生理を概説できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

適宜、資料を配布するほか、以下のテキスト、文献を利用する。

- ・小澤澗司・福田康一郎 監修、標準生理学（第8版）、2014、医学書院
- ・日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン編集委員会編、外傷専門診療ガイドライン、へるす出版、東京、2014
- ・Drasner K, Swisher JL: Delayed complications and side effects of regional anesthesia. In: Regional Anesthesia and Analgesia, Edited by Brown LD, Philadelphia, W.B. Saunders Company, 1996

・Romanovsky AA. Do fever and anapyrexia exist? Analysis of set point-based definitions. Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol. 2004 Oct;287(4):R992-5

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	紫藤 治
2	発熱の発現メカニズムと病態生理	紫藤 治
3	Anapyrexia の発現メカニズムと病態生理	紫藤 治
4	高体温と組織障害	紫藤 治
5	低体温と組織障害	松崎健太郎
6	重症外傷における病態生理	渡部広明
7	生体侵襲と外傷死の三徴	渡部広明
8	局所、全身麻酔薬の作用機序と応用	佐倉伸一
9	麻酔薬の神経毒性と中毒時の病態生理 1	佐倉伸一
10	麻酔薬の神経毒性と中毒時の病態生理 2	佐倉伸一
11	骨形成と損傷治癒の機序	内尾祐司
12	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 1 (軟骨)	内尾祐司
13	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 2 (靭帯)	内尾祐司
14	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 3 (末梢神経)	内尾祐司
15	外部環境因子が運動器疾患の病態形成に与える影響 4 (半月板)	内尾祐司